

きょうだいの日

第1回
～
第5回

しづたねの活動の大きな柱のひとつ「きょうだいの日」。モデルになっているのは、アメリカで広く開催されている、特別なニーズのある子どものきょうだいのためのワークショップ「シブシヨップ」です。代表がシブシヨップ創始者のドナルド・マイヤーさんのトレーニングを受講して感じた「ひとりじゃない」のあたたかさを、日本のきょうだいさんたちにも伝えよう！いつもがんばっているきょうだいさんが、主役になってあそびきれる日をつくろう！と始めました。

10年で20回。きょうだいさんにごほうびを用意しようと思っているのに、きょうだいさんたちが笑ってくれることがうれしくてしょうがなく、ごほうびをもらってしまっただけなんです。

しづたねの「きょうだいの日」への想い

- ① 思い切り笑って動いてストレスを発散してほしい
 - ② 自分が主役であると感じてほしい
 - ③ マイナスの感情を受け入れてもらえる安心感を感じてほしい
 - ④ 自分を大切に思っているひとの存在を感じてほしい
 - ⑤ 同じ立場の子もいること、ひとりじゃないことを感じてほしい
- ⑥ 親御さんと病気の子どもとの罪悪感が少しでも軽くなりますように

はじめてのきょうだいの日。しめきりの日ぎりぎりまで申し込みがありませんでした。
 「どんな場所かわからないから仕方ないよね」「きょうだいさんのために集まった大人たちで仲良くあそべたらいいね」とあきらめかけていた時に、朝日新聞の記者さんが連絡をくださり、新聞でとりあげてくださいました。
 新聞の力は偉大です☆すぐに8名の申し込みがあり、無事に1回目の「きょうだいの日」をひらくことができました。

多種 ちしき

シブレンジャーは、ダウンタウンのTV番組の中の「ゴレンジャイゲーム」をもとに、色合わせゲームの題材としてうまれました。
 ゲームはウケませんでした。シブレンジャーはしづたねの専属ヒーローとして、今日もきょうだいさんたちを応援しています☆

今ではおなじみ(?)のしづたね専属ヒーロー「シブレンジャー」各レンジャーのデザインはシブレッドによるものですが、シブブラックだけは、シブホワイトだったレンジャーさんがある日突然つくってくれた謎のキャラなのです。
 白から黒へ…敵か味方かシブブラック…

たねまき戦隊シブレンジャー！



シブレンジャーには(きつとレッドしか知らない)キャッチフレーズもちゃんとあるのです。

- 🔴 燃える正義！シブレッド
- 🔵 クールな凄腕！シブブルー
- 🟡 笑いの達人！シブイエロー
- 🟢 頼れる頭脳派！シブグリーン
- 🟠 愛の戦士！シブオレンジ
- ⚪ やさしい勇氣！シブホワイト
- ⚫ 敵か味方か?!シブブラック

帰る前にレンジャーさんに名刺シールを貼っています。



第1回から人気の風船サッカー！



最初は緊張した表情だったきょうだいさんたちが、走って、笑って、ほっぺが真っ赤に、目はキラキラ輝いてそれはそれは可愛くて、胸がいっぱいになりました。いたずら嬉しかったなー！

最初の頃の「きょうだいの日」は、きょうだいさんのワークショップと、親御さん&一般参加の大人の方向けの講座がセットになった形でした。講座参加者も最初と最後はきょうだいさんと一緒にあそびます。そうすることで、たくさんの方が味方なんだよ、ということが伝わるという思いがありました。
 しかし、ワークショップ、講座、病気のお子さんの一時保育を同時進行で行うため、各スタッフはそれぞれの持ち場しか見ることができず、かなりてんやわんやで終わる1日…
 講座の申し込み人数が落ち着いた頃、もっとゆっくり子どもたちと関われる今の「きょうだいの日」のスタイルに落ち着きました。



どんな子が来てくれるのかな、笑ってくれるのかな、楽しんでもらえるのかな、ドキドキでつった招待状。

2回目の「きょうだいの日」が終わった後、記録用のビデオカメラに、きょうだいさんとお父さんがずっと楽しそうに風船であそんでいる様子が録画されていました。このビデオや「今日はこの子とめいっばいあそぶぞーって思ってたんで」というお父さんの言葉、「今日はこの子とお茶して帰ろうと思います」というお母さんの言葉から、親子一緒にの春の「きょうだいの日」がうまれました。



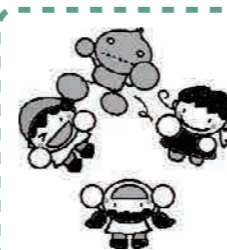
シブレッドの第1回「きょうだいの日」レポートから

当日、実際にシブシヨップが始まる直前までは、「やっときょうだいの日を迎えられた！」とすごく楽しみな反面、いろんな不安もありました。きょうだいさん同士もみんな初めて出会う子ばかりで、僕もシブレンジャーもみんなとは初対面で、うまく打ち解けられるかな…、盛り上がらなかったらどうしよう…。でも、シブシヨップが始まると、不安や緊張はすぐにどこかに飛んでいってしまいました。きょうだいのみんながこうして集まってくれた喜びと、話したりあそんだりする楽しさで頭も胸もいっぱいになったからです。

最初は少し緊張した表情だったきょうだいさんたちも、どんどん笑顔が増えていきました。僕がクッキーを食べ損なってぼろぼろこぼしたのを大笑いしたり、汗だくになって人形を投げ合ったり、広い体育館には笑い声が響き渡っていました。プログラムが全て終わってからも、しばらくみんなそれぞれに風船を持って走り回ったり、シブレンジャーとあそんだりしゃべったり、まったりと自由に過ごしてくれました。

きょうだいさんたちが帰った後も、体育館にはまだ笑い声がこだましているような気がしました。みんなアンケートでも「また来たい」と答えてくれて、ほんとにうれしかったです。また来たいと思うくらい楽しんでくれたことが、僕らにとって何よりの宝物となりました。

当日からしばらくはきょうだいさんたちの笑顔や笑い声が頭から離れず、今でも時々思い出してはうれしい気持ちになります。「やってよかった」というのが率直な感想です。一番喜んだのは僕たち自身かも知れませんね。これからもずっと続けていけますように…。



第1回のチラシに添えられたイラスト。今よりだいぶ素朴(?)な感じですが、お金もない自分で描こう！とがんばってマウスで描いたものでした。「しづたね」もシブレッドです。

